

「グローバル化する社会で、 子どもたちが、将来、活躍する ために必要な学びとは」

長谷川寿一
(東京大学)

高知県グローバル教育シンポジウム 2015年11月29日

グローバル化時代の人材育成（1）

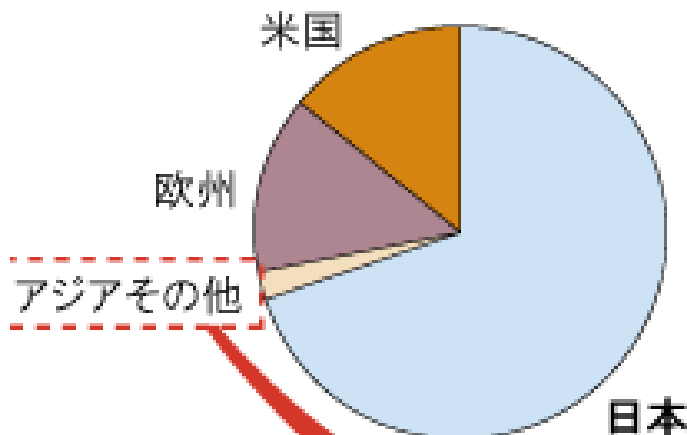
- グローバル化とは

- 情報通信技術の進展、交通手段の発達による移動の容易化、市場の国際的な開放等により、人、物材、情報の国際的移動が活性化して、様々な分野で「国境」の意義があいまいになるとともに、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっている現象

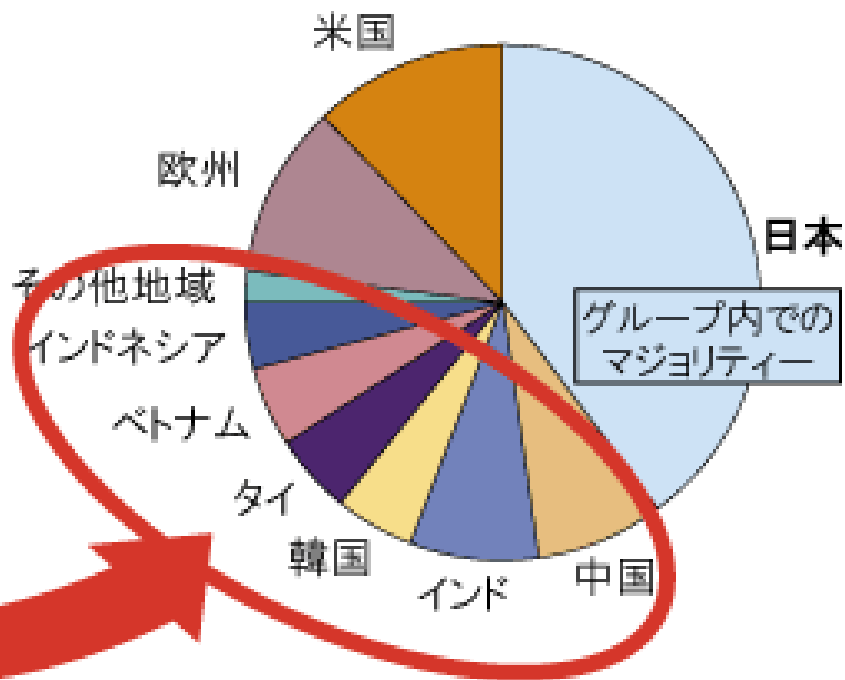
- 国際教育交流政策懇談会

企業内における「日本」と「海外」の占めるウェイト（イメージ図）

グローバル化前



グローバル化後

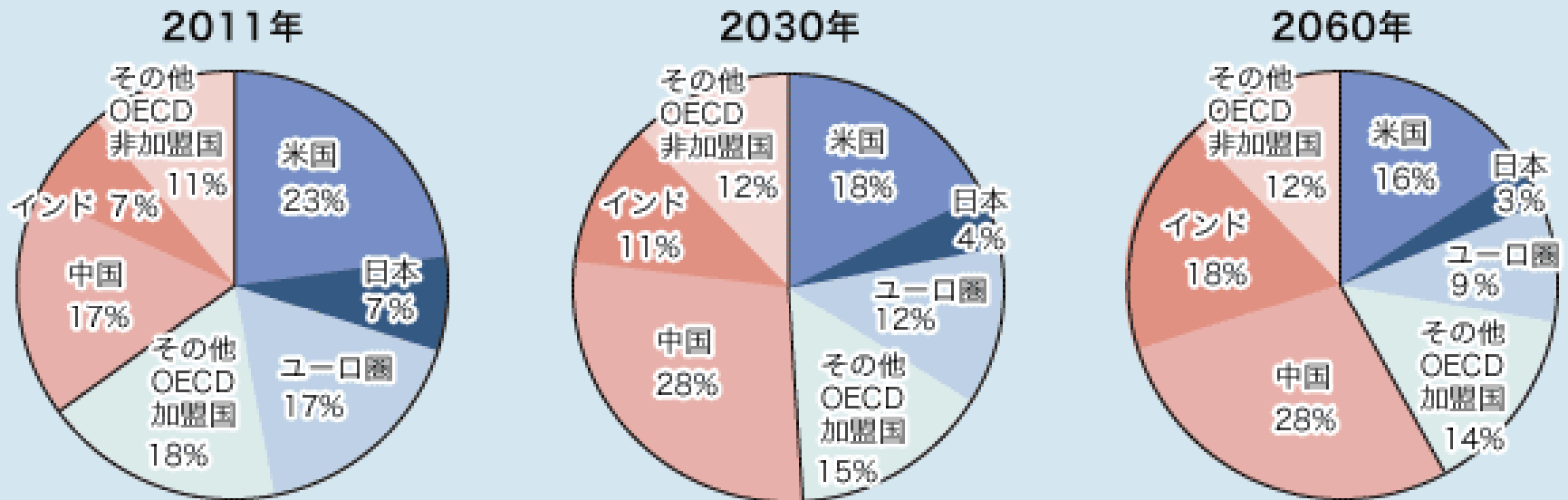


アジア地域が急成長

↓
グループ内での存在感高まるが
本社からの期待も増大

自分達が成長していくためには「外から学びたい！」が、
日本は「**ロールモデル**」としての存在感を示してくれるか？

国・地域別に見たGDPのシェア



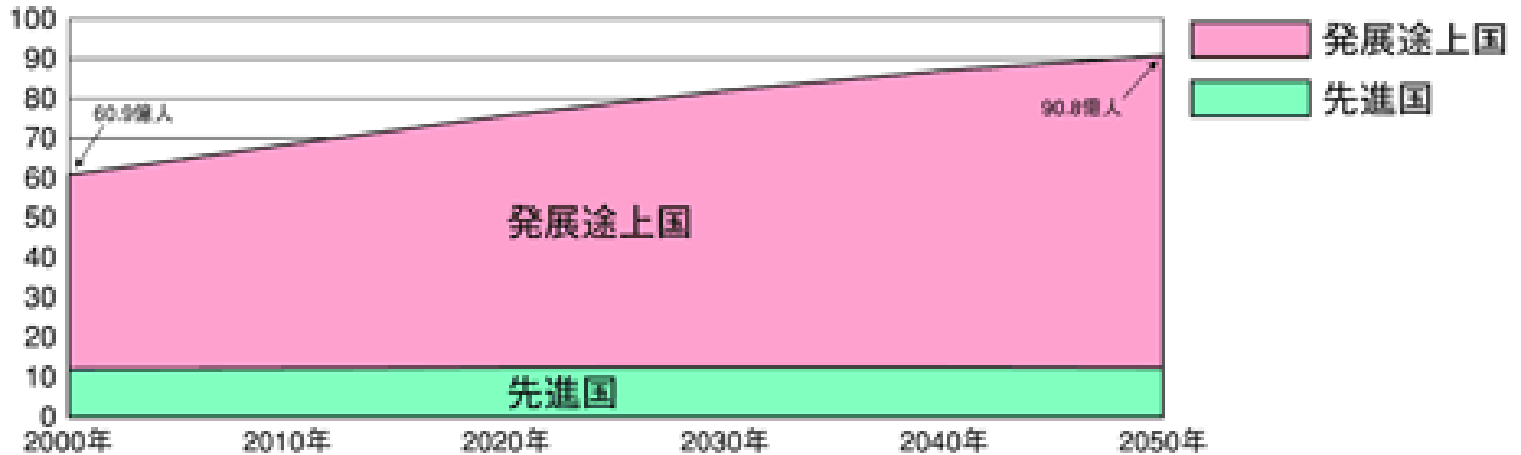
(注) 経済協力開発機構 (OECD) 加盟34国と非加盟の主要新興国8カ国のGDP (2005年の購買力平価ベース) 合計に占める国別シェア。

(出所) OECD「2060年までの長期経済成長見通し」

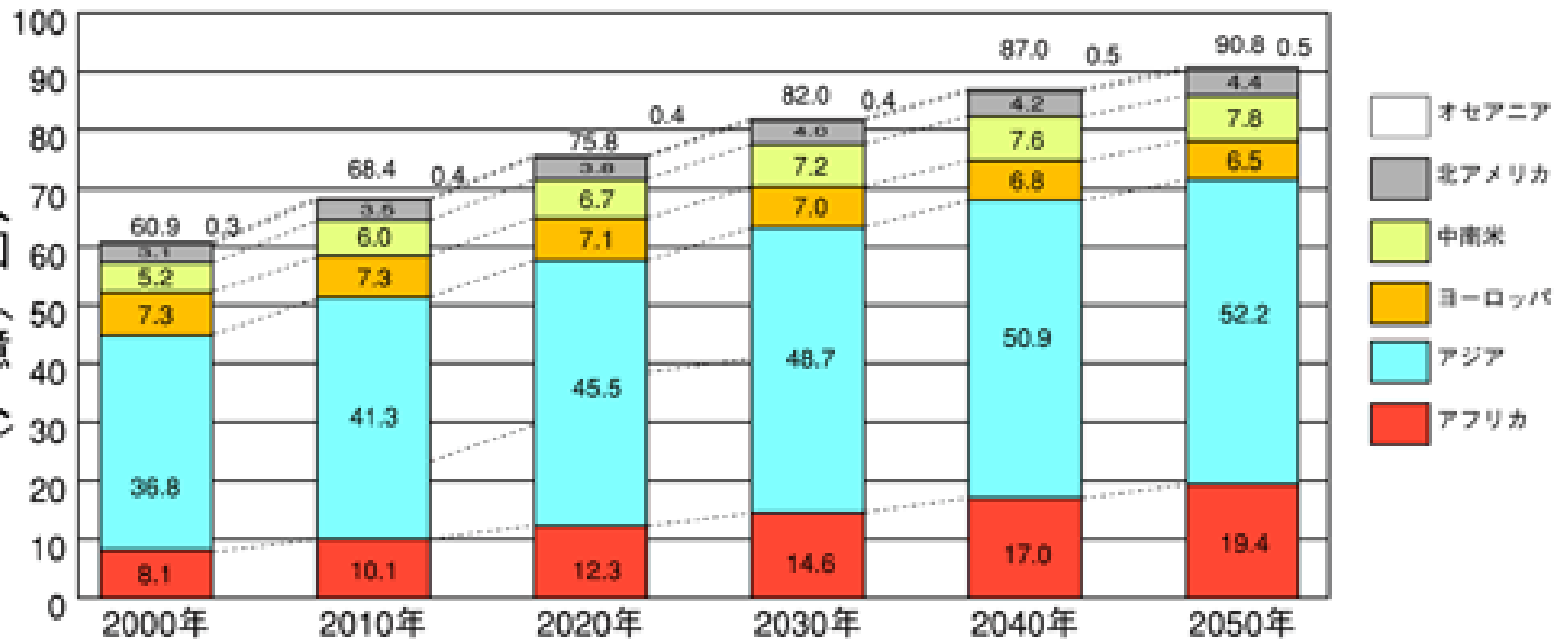
今後50年間で新興国の市場が大きく拡大していく

世界の人口予測

人口
(億人)



人口
(億人)

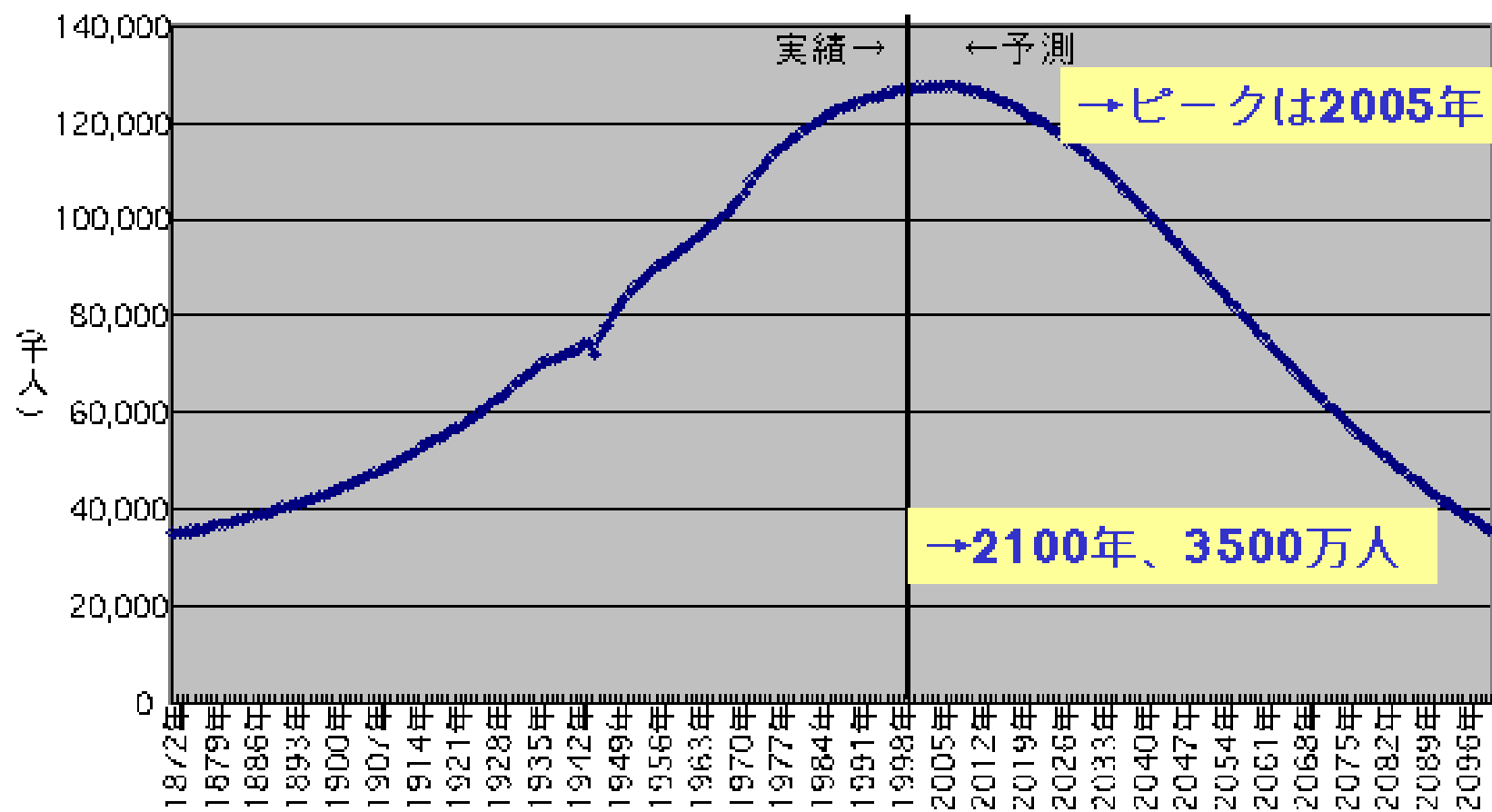


出典：World Population Prospects 2004 Revision (UN)

世界の人口は途上国で増加、先進国で維持、日本で減少していく

総人口の予測結果

総人口の予測



日本の人口は大きく減少、人口ピラミッドも逆転

グローバル化時代の人材育成(2)

- ここまでのまとめと課題
 - 世界は大きく流動化している
 - この先、世界の市場や人口は途上国で拡大
 - 一方、日本の人口は大きく減少し、若年層が薄くなる
 - そのような状況で、次世代の人材をどのように育てるかが大きな課題
 - 教育のあり方の大きな転換点

グローバル化時代の人材育成(3)

- グローバル化と教育の関係
 - 国際教育交流政策懇談会
 - 知識基盤社会化やグローバル化は、アイデアなどの知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させるとともに、製造業等の海外移転による国内雇用の変化をもたらしている。また、異なる文化との共存や国際協力の必要性を増大させている。

グローバル化時代の人材育成(4)

- グローバル化と教育の関係(続)
 - 競争社会において、自己の能力を発揮し社会に貢献するためには、**基礎的・基本的な知識・技能の習得**やそれらを活用して**課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力**等が必要である。しかも、知識・技能は、陳腐化しないよう**常に更新**する必要がある。**生涯にわたって学ぶこと**が求められており、学校教育にはそのための重要な**基盤づくり**の役割も期待されている。

グローバル化時代の人材育成(5)

- グローバル化と教育の関係(続)
- 「共存・協力」も必要である。国や社会の間を情報や人材が行き交い、相互に密接・複雑に関連する中で、世界や我が国社会が持続可能な発展を遂げるためには、環境問題や少子・高齢化といった課題に協力しながら積極的に対応することが求められる。このような社会では、異文化を背景に持つ者や自然と共に生きることができ、寛容な精神を涵養することが求められる。

グローバル化時代の人材育成(まとめ)

- 競争力
 - 基礎力、課題発見・解決力、生涯にわたる学び
 - 共存・協調力
 - 異文化理解(自文化理解も)
 - 世界的な課題の共通認識
- ↓ ↓
- これまでの常識や経験値だけでは対応しきれない
 - これまでにない人づくりの基本戦略の必要性

大学におけるグローバル人材育成

- 文科省の事業

- 「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」(2009年～)

- 新興国からの優秀な留学生の獲得(受入れ)

- 「グローバル人材育成推進事業」(2012年～)

- 大学教育のグローバル化を目的とした体制整備
- 日本人学生の留学促進(送出し)

- 「スーパーグローバル大学等事業」(2014年～)

- トップ型、グローバル化牽引型

東京大学の取組み(総合的な教育改革)

育成する人材 像

基礎学力と先端知
への好奇心

よりグローバル、よりタフな
人材の輩出

グローバル思考・
行動力

課題発見・挑戦的
体験

異文化理解と尊重

育成する
能力

揺るぎない
基礎学力、
先端的知へ
の好奇心

グローバルな
思考と行動力

課題の発見・
挑戦的体験へ
の積極的姿勢

異なる文化や
価値観の
理解・尊重

公共的な
責任感、巨視
的な判断力

公共的責任感・
巨視的判断力

改革の3つの柱



国際化

国際流動性の向上
グローバルキャンパスの実現
学習機会の多様化



実質化

主体的な学びの促進
質の向上・量の確保
一貫した学士課程教育



高度化

4年間を通じた高度教養教育
イノベーション創出を促す専門教育
トップ層をさらに伸ばす

国際流動性の向上
グローバルキャンパスの実現
学習機会の多様化

グローバル化社会での中高校生の学び

現在の實力はトップクラス

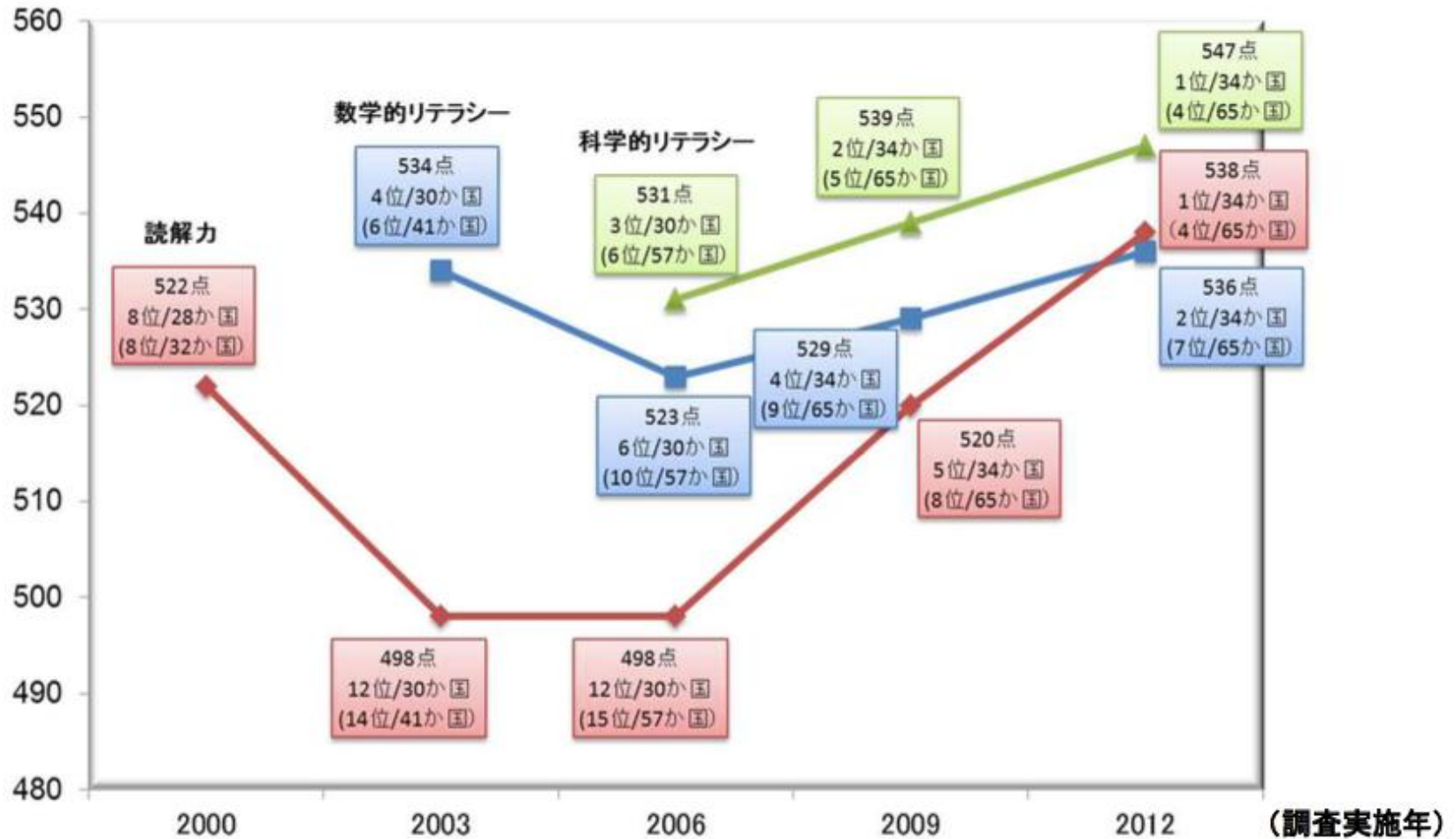
- PISA2012 (OECD生徒の学修達成度調査)
 - 数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの三分野すべてにおいて、平均得点が比較可能な調査回以降、最高
- TIMMS2011 (国際数学理科動向調査)
 - 小学生: 理数とも平均点が前回より増加
 - 中学生: 平均点は変わらないが、習熟度が高い生徒の比率が増加
 - 中学生: 理数とも「勉強が楽しい」との回答率が国際平均よりも低い

平均得点及び順位の推移

※順位はOECD加盟国中(カッコ内は全参加国・地域中の順位)

※数学的リテラシー、科学的リテラシーは経年比較可能な調査回以降の結果を掲載

(平均得点)



■ 数学的リテラシー ■ 読解力 ▲ 科学的リテラシー

※各リテラシーが中心分野となった回(読解力は2000年、数学的リテラシーは2003年、科学的リテラシーは2006年)のOECD平均500点を基準値として、得点を換算

グローバル化社会での中高校生の学び この先、どのような学びが必要か

- 知識集約(つめこみ)型学び
- 課題発見能力
- 情報統合力
- 異文化理解
- 世界的課題の認識
- コミュニケーション力
- 受動的学びから能動的学びへの転換

大学の入試改革と高大連携

- 大学入試改革
 - 一般入試(学力試験)からAO・推薦入試へ
 - 入試の複線化
 - 各大学がアドミッション・ポリシーを明示
- 東京大学の場合
 - 推薦入試を初めて導入
- 京都大学の場合
 - 特色入試(AO入試)を初めて導入

平成28年度

東京大学

推薦入試学生募集要項

出版期間：平成27年11月2日(月)～11月6日(金)

東大の推薦入試の基本方針(1)

- 東京大学の推薦入試は、学部学生の多様性を促進し、それによって学部教育の更なる活性化を図ることに主眼を置いて実施します。実施に当たっては、日本の中等教育における先進的取組を積極的に評価し、高等学校等の生徒の潜在的多様性を掘り起こすという観点から、日本の高等学校等との連携を重視します。

東大の推薦入試の基本方針(2)

- 推薦入試による選抜に当たっては、本学の総合的な教育課程に適応しうる学力を有しつつ、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、もしくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ志願者を求めます。東京大学は、推薦入試で入学した学生が、東京大学、ひいてはグローバル社会の活力の源として活躍することを期待しています。

東大法学部の推薦要件

- 求める学生像
 - 現代社会,とりわけグローバルな場でリーダーシップを発揮する素質を持つ学生。すなわち,優れた基礎的学力を備えるとともに,現代社会のかかえる諸問題に強い関心を持ち,実社会の様々な事象から解決すべき課題を設定する能力,さらには他者との対話を通じて,その課題の解決に主体的に貢献する能力を有する学生。
- 学部が求める資料(例)
 - 問題発見・課題設定能力を示す論文
 - 留学経験など異文化理解を示す資料
 - 国際通用性のある入学資格試験成績(国際バカロレア等)

東大教養学部の推薦要件

- 求める学生像

- 文系理系にかかわらず,複数の学問分野を横断する関心や新しい分野に挑戦する意欲をもち,将来にわたって,グローバル時代における諸問題の解決を目指す高い志をもつ学生。

- 学部が求める資料(例)

- 在学中に執筆した課題論文等
- 国際通用性のある入学資格試験成績(国際バカロレア等)

2 出願状況（受領通数）

平成27年11月9日現在

学部・学科	募集人員	出願者数（受領通数）
法学部	10人程度	24
経済学部	10人程度	7
文学部	10人程度	10
教育学部	5人程度	9
教養学部	5人程度	17
工学部	30人程度	47
理学部	10人程度	32
農学部	10人程度	12
薬学部	5人程度	4
医学部 医学科	3人程度	9
医学部 健康総合科学科	2人程度	2
計	100人程度	173

グローバル人材育成をうたう学部への志願率が高い

国際バカロレアへの期待

- 国際バカロレアとは
 - 国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラム
 - 平成27年10月1日現在、世界140以上の国・地域、4,344校(日本国内:35校)において実施
 - ディプロマ・プログラム(DP)【2,918校 (国内:26校)】 大学入学資格(国際バカロレア資格)が取得可能

IBの使命

- 国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。
- この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。
- IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

IBの学習者プロフィール

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

ディプロマ・プログラム(DP)のカリキュラム

- 6グループ(言語と文学、言語習得、個人と社会、理科、数学)の教科科目、少なくとも2科目以上を履修。
- コア科目 ← **従来の中等教育にはない科目**
 - **課題論文**: 個人研究に取り組み、研究成果を4,000語(日本語の場合は8,000字)で成果発表
 - **知の理論**: 「知識の本質」について考え、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探究する。批判的思考を培い、生徒が自分なりのものの見方や、他人との違いを自覚できるよう促す。最低100時間の学習。
 - 創造性・活動・奉仕

国際バカロレアを活用した大学入試(例)

- 筑波大学「国際バカロレア特別入試」全学群
- 岡山大学「国際バカロレア入試」全学部
- 国際教養大学「AO・IB・高校留学生入試」
- 横浜市立大学「国際バカロレア入試」
- 慶應義塾大学「国際バカロレア資格取得者対象入試」、「AO入試(IB方式)」
- 順天堂大学「国際バカロレア入試」
- 玉川大学「国際バカロレアAO型入学審査」

国際バカロレアの推進に関する提言等

- 「日本再興戦略 -JAPAN is BACK-」(平成25年)
 - 一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す(2018年までに200校)
- 教育再生実行会議(第四次提言、平成25年)
 - 大学の入学者選抜において国際バカロレア資格及びその成績の積極的な活用を図る。国は、そのために必要な支援を行うとともに、各大学の判断による活用を促進する。

国際バカロレアの推進に関する提言等

- 日本経済団体連合会「次代を担う人材育成に向けて求められる教育改革」(平成26年)
 - 政府は、国際バカロレア(IB)課程教育を行うIB認定校の拡大(2018年度までに200校へ)など、グローバル人材育成のため、教育機関の創意工夫や特色を活かした教育を推進する方針を打ち出している。
 - こうした取り組みを更に拡大するとともに、横展開させる必要がある。IBを教授できる人材の育成・確保が喫緊の課題であり、教員養成大学等において迅速に取り組むことが求められる。

まとめ

- グローバル化により世界の構造が大きく変わろうとしている。
- 少子化と高齢化が進む日本でグローバル化に対応する人材育成を行うことが喫緊の課題
- 求められる能力は、課題発見・解決能力、異文化理解能力、コミュニケーション力
- 中高等教育は複線化が求められる
- 国際バカロレアはこれらに答えるプログラム